

②0

篠原善次郎翁・同再建碑文



〔石碑に彫刻されている文字〕

（胸像台座表面）

篠原善次郎翁

（胸像台座裏面）

篠原善次郎翁は安政二年鹿児島に生れ長じて農学を修められたが明治四年開拓使長官黒田清隆の命を受け北海道に職を奉ずること多年同十五年

職を辞して青森に移り実業に志し刻苦勉勵よく本州と北海道との交易に従事し本市産業界に重きをなしたまた翁は公德の志厚く大正十五年乗合自動車六輛と運営資金壹万五千元を添え翁の経営する全運送事業を本市に寄贈されもつて市営バス事業の創設に寄与された昭和六年九月北山市長はその功績を讃えこれを録して彰徳記念像を建立したが同十八年戦力資材として翁の像もまた献納されることになった本年市営バス創業三十周年を迎えるに当りその遺徳をしのびここに再び翁の像を刻して功績を永世に伝える。

昭和三十一年三月六日

青森市長 横山 實 撰書

設計監督

青森市技師 山田敬助

技手 角田重太郎

施行 石工 志田晋藏

昭和6年（1930）9月 建立、
昭和31年（1956）3月6日再建
〔建立者〕 青森市
〔題字・書〕 北山一郎／横山實

（胸像背部） 桂 樹 作

【解説】

「市営バス」の創始者と言われる篠原善次郎（1855～1930）の胸像です。

篠原は鹿児島県出身で、北海道開拓使庁（北海道庁の前身）で働いた後、明治16年（1883）に青森市で乗合馬車事業を始めました。さらに、大正12年（1923）には乗合自動車の運行許可を得て、翌年春から営業を開始しました。この時、すでに篠原はバス事業を公営化すべきという考えを持っていたといえます。

そして大正15年（1926）3月6日、篠原は青森市に対して乗合自動車6台と現金1万5千円（新車2台の購入費と車庫の建設費）を寄附しました。市は同年4月2日付で内務・運輸省の許可を得て、11日からバスの運行を開始しました。日本初の公営バスは大正13年（1924）1月に開業した東京都営バスとされているので、青森市営バスも公営バスとしては早い時期に運行を開始したといえるでしょう。

昭和6年（1931）9月、当時の青森市長の北山一郎市長は、その功績を称え公園内に彰徳記念像を建立しましたが、昭和18年（1943）、胸像は戦時中の戦力資材として献納されています。

現在の胸像は2代目で、昭和31年（1956）に市営バス創業30周年を記念して、当時の青森市長横山實市長が選書し、建立したものです。

2代目の胸像の作者は、彫刻家 中野桂樹（なかのけいじゅ・現つがる市出身）です。